

## 2 集計結果

過去の調査と同一の質問については、原則として過去の結果と比較した。

本報告書における各調査結果の標記方法

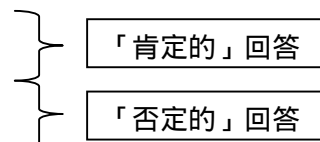
調査名	報告書標記
平成 5 年7月調査(回答者数 1,903 人)	H5
平成 12 年7月調査(回答者数 2,805 人)	H12
平成 17 年7月調査(回答者数 2,333 人)	H17

### (1) 社会的習慣についての考え方

質問 1 まず暮らしや社会についてのいろいろな見方や考え方について、それぞれにあなたのお考えをお聞かせ下さい。

質問 1-1～2-2-2 については、回答の選択肢を次のように表現した。

- 「1. と思う」……………「肯定」回答
- 「2. どちらかといえばと思う」……………「やや肯定」回答
- 「3. どちらかといえばそう思わない」……………「やや否定」回答
- 「4. そうは思わない」……………「否定」回答

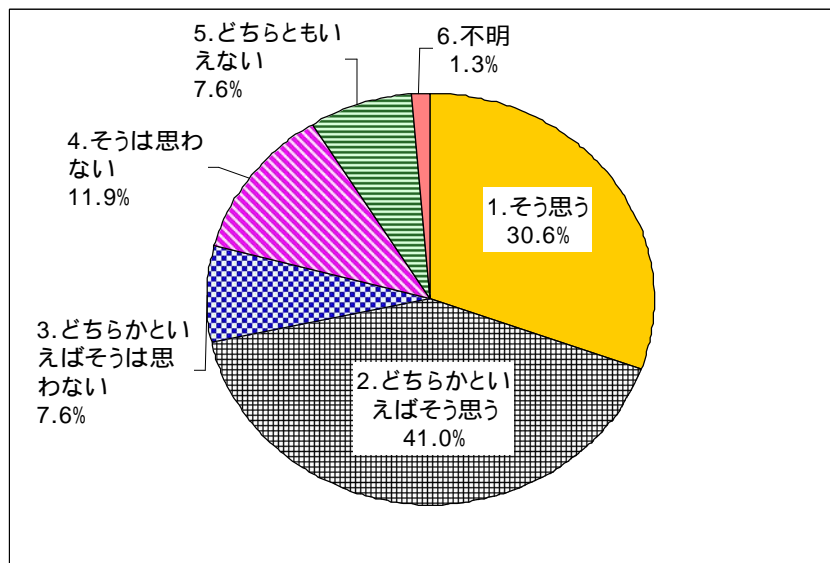


### 冠婚葬祭への日柄(六曜)への配慮

質問 1-1 結婚式は「大安」の日に行い、葬式は「友引」の日をさけて行うほうがよいと思う。

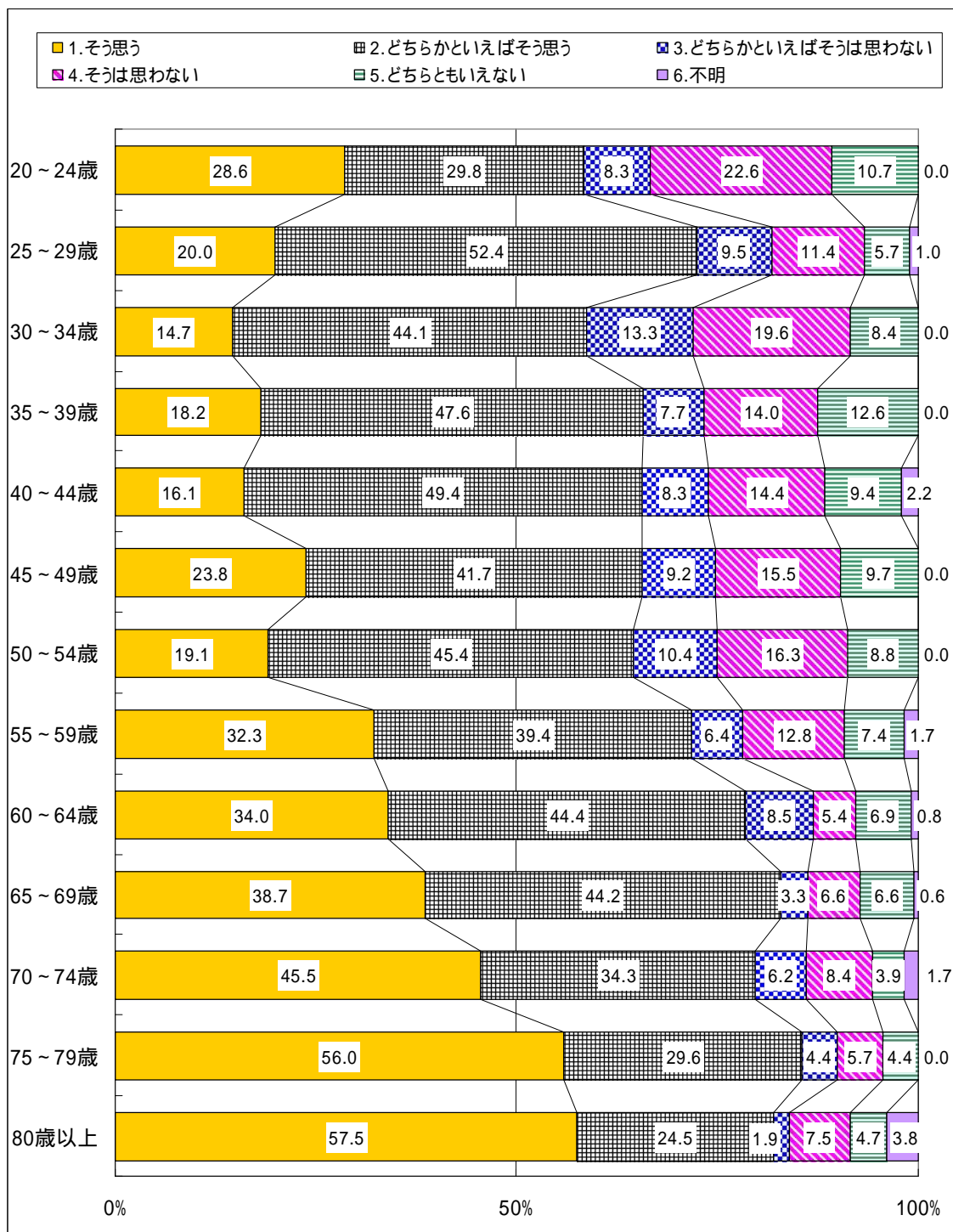
因習的観念に起因すると考えられる「冠婚葬祭の日柄(六曜)」に対する意識を聞いた。

図 1: 冠婚葬祭の日柄(六曜)



「冠婚葬祭の日柄(六曜)への配慮」について、「肯定的」回答が 71.6% であるのに対し、「否定的」回答は 19.5% となっている。

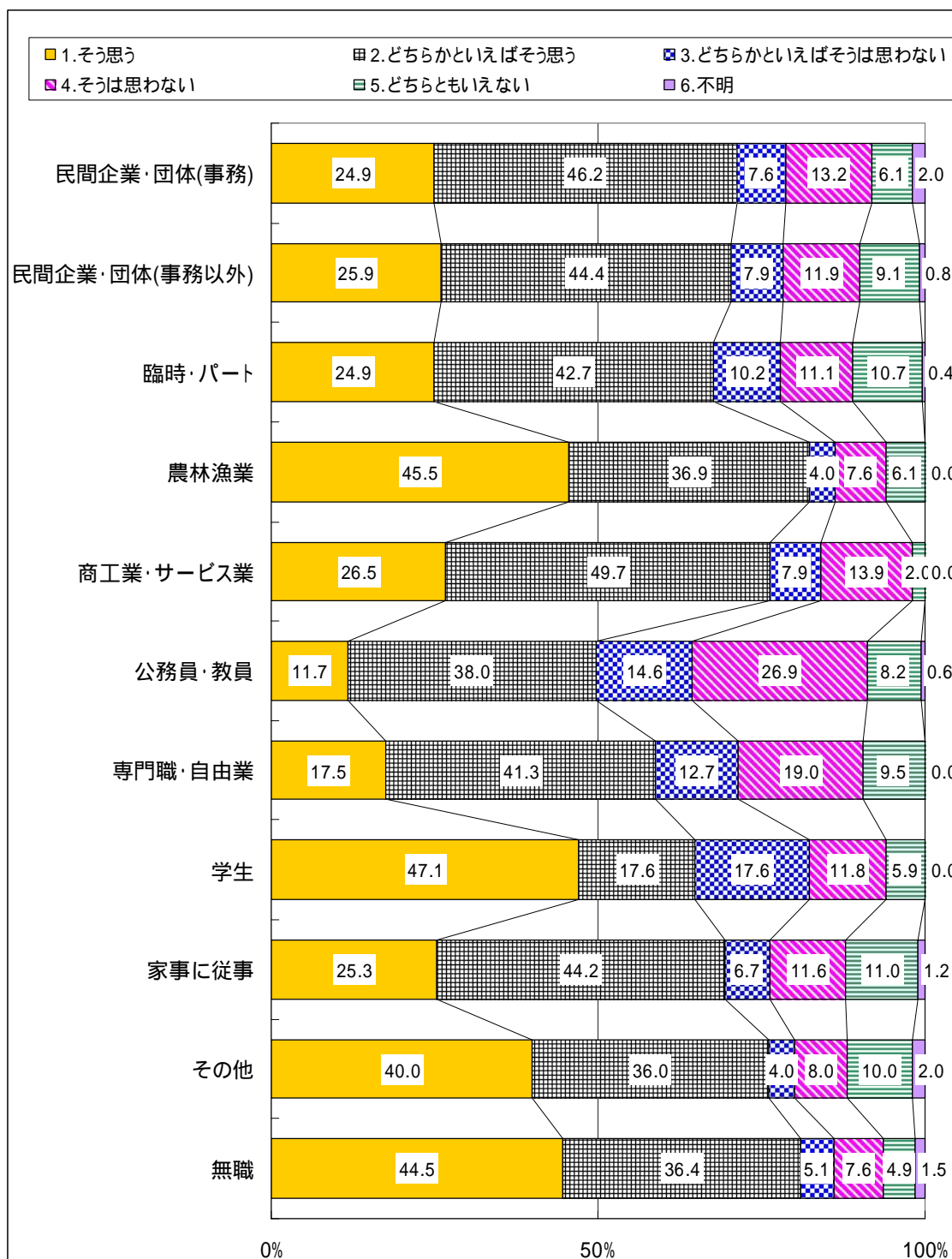
図2:年齢階層別、冠婚葬祭の日柄(六曜)への配慮(%)



年齢階層別にみると、「日柄(六曜)への配慮」について「肯定的」回答は、どの年齢階層でも5割を超え、高年齢になるほどその割合が高くなっている。

特に、「肯定」回答は、「50～54歳」の19.1%を境に、年齢階層が高くなるとともに割合が高くなり、「80歳以上」では57.5%となっている。

図3:職業別、冠婚葬祭の日柄(六曜)への配慮(%)



職業別にみると、どの職業においても「日柄(六曜)への配慮」について「肯定的」回答が「否定的」回答より高い割合を占めている。「肯定的」回答の高い順にあげると、「農林漁業」82.4%、「無職」80.9%、「商工業・サービス業」76.2%、「その他」76.0%、となっている。

逆に否定する割合が高いのは、「公務員・教員」41.5%、「専門職・自由業」31.7%、「学生」29.4%となっている。